

# お薬のしおり

## アルツハイマー病と治療薬 No.41 (H17.2)

東京医科大学病院 薬剤部

年齢を重ねるうちに「もの忘れが増えてきたな～」と思う方は多いのではないのでしょうか。これは脳の神経細胞の減少という免れることのできない老化現象の影響であり誰にでも起こりうる「もの忘れ」です。アルツハイマー病とは、このような通常の老化による減少よりも急激に脳の神経細胞が減少し脳が病的に萎縮して痴呆を招く「疾患」です。痴呆患者は年々増加傾向にありその有病率は65歳以上の人口の3～8%といわれていますが、アルツハイマー病による痴呆はその半数以上を占めています。

症状としては、まず物忘れや記憶力の低下があげられます。最初は古い記憶は比較的覚えています。新しい出来事が覚えにくいという特徴があり、次第に理解力や自発性の低下が起こり失語や失認などの症状が現れてきます。緩やかに発症し徐々に進行していくのが特徴です。また、このような症状に伴い、意欲の低下、抑うつ気分、睡眠障害、妄想、幻覚、せん妄などの精神症状が現れてきます。

残念ながら、アルツハイマー病の成因は今のところ解明されておらず、知能低下を改善する薬はありません。しかしながら、軽度および中等度の症状の進行を遅らせる薬として、アリセプト（一般名：ドネペジル）があります。アリセプトという薬はアセチルコリン分解酵素阻害剤という種類のもので、アルツハイマー病患者さんで減少するアセチルコリンの分解を抑えるものです。アセチルコリンは脳の記憶に密接に関係していることからこの薬を服用することにより見かけ上の進行を遅らせる（約6ヶ月間）ことができます。しかし、アリセプトを服用していたとしても脳の神経細胞の減少を抑制することはできず、症状は徐々に悪化してしまいます。ただ、根治療法がない現状においてこの半年の



期間が家族にとっては気持ちを整理し受け入れる期間として大変貴重であるといえます。

また、病態面の一つとして脳の循環代謝や神経伝達物質の低下がみられることから、脳循環代謝改善薬といわれるサアミオンという薬や神経伝達を賦活化するグラマリール、シンメトレルという薬を用いることもあります。その他の精神症状に対しては症状の様子をみながら抗うつ剤や睡眠剤、精神安定剤を服用しますが、生活リズムを整えることで症状が改善する場合も少なくありません。薬の服用の管理は家族などの介護者に依頼することが多いわけですが、服用による症状の変化などを把握することも重要なことです。

現在、多くの製薬企業がアルツハイマー病治療薬の開発に取り組んでいます。米国においては2003年10月に、中等度ないし重度のアルツハイマー病の症状を改善する新薬「メマンチン」が承認され、今年1月から米国で市販されています。この薬はこれまで使われている既存のアルツハイマー病治療薬と併用することで痴呆症の症状が改善するばかりか、病気の進行を遅らせる効果があるといわれています。

このようにアルツハイマー病の治療はきわめて限られています。しかし治療可能な痴呆も数多くあります。「痴呆」を疑った場合には問題となっている症状の原因が何であるのかを早期にきちんと診察してもらうことが大切です。

また、規則正しい生活をおくこと、興味と好奇心を持つようにして生活すること、塩分と動物性脂肪を控えたバランスのよい食事をとること、適度な運動を行うことなどが痴呆予防に有効とされています。明るい気分で毎日の生活をおくり痴呆の予防に努めましょう。

2004年12月、「痴呆」という言葉には、“侮蔑的な表現である上に、「痴呆」の実態を正確に表しておらず、早期発見・早期診断などの支障となっている”との指摘があり、「認知症」という名称に変更になることが厚生労働省の検討会で決まりました。

< 問診 >

